2024 年 1 月 25 日

JACET-Chubu Newsletter

一般社団法人 大学英語教育学会中部支部　No. 51

2023年度の活動

支部長 鎌倉 義士
（愛知大学）

支部会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。2023年度より執行部を新体制で担当させていただいております。コロナ騒動がある程度終息した後、積極的に支部活動を再開すべく進めております。2023 年度の行事は「支部大会」「第 1 回定例研究会＆講演会」「第 2 回定例研究会」の3つで、既に前者2つが開催されました。

年度初めに支部大会[6 月 10 日（土）オンライン開催]を開催しました。大会テーマを「AI 時代の英語教育」とし、柳瀬陽介先生（京都大学)に基調講演をお願いしました。また、大会テーマの演題でシンポジウムを行い、柳瀬陽介先生（京都大学)、佐藤雄大先生（名古屋外国語大学）、松岡弥生子先生（University of the People）の3名をシンポジストとしてお迎えし、AI を活用した英語教育の取り組みについてお話を伺いました。

続いて、「第 1 回定例研究会＆講演会」[12 月 3 日（日）対面とオンライン開催]を開催しました。定例研究会の部では、国際英語と異文化理解研究会による研究発表に加え、2 件の研究発表と1件の実践報告が行われました。そして、実験的な試みとして大学院生による構想発表となる work in progress が3件発表されました。講演会は「脳科学と英語教育―世界諸英語を視野に入れて―」を演題に、木下 徹（名古屋大学名誉教授）と大石 晴美（岐阜聖徳学園大学）のお二人をお迎えし、脳と世界諸英語の研究について有益なお話を伺うことができました。

2023 年度で最後の行事は、第 2 回定例研究会[3 月 2 日（土）]開催を残すのみとなりました。第 2 回定例研究会は、最新言語理論に基づく応用英語文法研究会による研究会発表が予定されております。そのほか、講演・研究発表・実践報告を予定しています。

翌 2024 年度には愛知大学にて大学英語教育学会第 63 回国際大会が予定されております。西日本の各支部が協力して開催される初の国際大会となります。中部支部の先生方にはお力添えをお願いすることがあります。何卒、中部支部会員みなさまのご協力と国際大会への参加を心よりお願い申し上げます。国際大会と共に、中部支部の活動へのご協力を宜しくお願い申し上げます。

目 次

2023 年度の活動　鎌倉義士　1 頁

講演会報告(2023年度中部支部大会)
「AI の導入で英語の授業はより人間的になった ―実践速報に基づく考察」
柳瀬陽介氏（京都大学）
内田政一　2 頁

シンポジウム報告
「AI 時代の英語教育」
柳瀬陽介氏　（京都大学）
佐藤雄大氏　（名古屋外国語大学）
松岡弥生子氏（University of the People）
佐藤雄大　3 頁

研究会報告
国際英語と異文化理解研究会
吉川寛　4 頁

書評
『World Englishes 入門 グローバルな英語世界への招待』　鎌倉義士　5 頁
事務局より　7 頁

講演会報告

2023 年度中部支部大会 基調講演

『AI の導入で英語の授業はより人間的になった ―実践速報に基づく考察』

柳瀬 陽介氏

（京都大学）

2023 年 6 月10日 [ZOOM 開催]

第 38 回 JACET 中部支部大会では、2023 年 6 月 10 日（土）に『AI の導入で英語の授業はより人間的になった ―実践速報に基づく考察―』と題して、柳瀬陽介氏（京都大学）をお迎えし、基調講演を行った。近年英語教育の分野でも話題となっている AI について考える貴重な機会を得ることができた。

柳瀬氏による基調講演は、前提条件としてテクノロジー単体の有用性を論じるのではなく、特定の文脈におけるテクノロジーの有用性を語るべきであり、その文脈で活動する当事者の価値観も考慮しなければならないという点から始まり、講演内容は実践報告とその考察に分けられる。前者は「AI と対話しながら語彙学習」「AI 音声を使った英会話練習」「AI による学術英語ライティング添削・改訂」「AI によるスピーチの作成支援と改訂」で、後者は「AI 活用の前提」「AI 導入による「人間らしさ」の復活」というテーマで、主に英語授業に ChatGPT 導入と実践、そして学生の反応と成果・課題等、重層的に述べられた。

「AI と対話しながら語彙学習」では、学術的な語彙の学びを目標とし、ChatGPT を使用して、プロンプトは英語でのタイピング、または音声入力を通して対話し、語彙学習を行っている。その成果として学習者のコメントを引用し、学習者は英語を英語で考える「英語ループ」（Use→Learn→Use・・・）に入り、「語彙の具体的な英語描写によりその語彙のニュアンスを学習することができる」など、能動的な学習をすることが可能となる。課題としては「AI の返答を吟味するには知識が必要である」「AI 回答のレベルをコントロールするプロンプトの技術が必要」など学生のコメントを重ね合わせて問題点を提示し、学習者の視点に常に目配している。また AI やウェブ資源を活用して、とりわけ音声に関しては、補助教材も示している。

「AI 音声を使った英会話練習」については、自主課題であるが「AI によって会話の機会が増えた」「自分の会話のペースでできる」など学生のコメントから成果が述べられた。同時に問題点として、啓発された後の「習慣化」について問題が示された。

次に「AI による学術英語ライティング添削・改訂」である。柳瀬氏はライティングの学習の基本であるストーリーと文体について説明し、フィードバックを 2 段階に分け、一次フィードバックは AI に、人間教師は二次フィードバックに集中する実践を行っている。ただし、エッセイの構想時には AI は使用禁止で、アウトラインは学習者自身で考える。問題点は ChatGPT の訂正する英語のレベルを高くしすぎない点である。加えて ChatGPT の英語を鵜呑みにせず、「自分の声」を見つけて身につけるように指導している。その点から人間教師の二次フィードバックが重要であると述べている。成果としては、個別最適化したフィードバックができる点や、学習者は、英語における SVO の単純な構文が見違えるほど豊かになることが実感された学生の反応が挙げられた。

「AI によるスピーチの作成支援と改訂」では、学生からの英語に関する学習相談に始まり、資格試験などのスピーキングテストの対策に AI を取り入れている。とりわけ、トピックを入力するとアウトラインと冒頭の印象的な文を出力するスピーチアウトライン作成用プロンプトと、ChatGPT に音声入力した英語を上質の話しことばに改訂するスピーチ実践・改善用プロンプトを作成した点が伝えられた。これを何度も音読し、自分のものにする学習が示された。

考察の部分では、教える側の「AI 活用の前

提」として、「Pragmatism over Logical Positivism」「Autopoietic System over Allopoietic System」「Learner Autonomy over Teacher control」「Individuation over Standardization」「Appreciation over Measurement」の姿勢を提示し、前者の価値観に基づいた AI の活用が示された。また学期始めのクラスで学ぶ意欲の重要性を宣言し、AI をどう使いこなすかという human-machine collaboration について述べられた。

最後に、AI 導入による「人間らしさ」の復活」として、AI 導入後学生は学びの喜びや驚きといった情動生を高め、自律的な影響関係を持つ社会性を高め、学びの主体性を高めたと点がまとめられた。

柳瀬氏の基調講演は、非常に魅力的なものであったと感じた。また氏自身も英語教育に関わる諸問題について継続的に発信し、啓蒙し、さらに新たな問題の解決に繋げている。未知のテクノロジーのよる不安を解消するには、教える側の工夫の必要性を報告者は感じた。AI を使用することで、人間教師の機械的な作業は減少するが、仕事は高度化する点も伝えられたが、加えて、学習者には個性に合わせ、使用して行くことが必要かと思われる。

内田 政一（桜花学園大学）

シンポジウム報告

2023 年度中部支部大会 シンポジウム
「AI 時代の英語教育」

シンポジスト：
柳瀬陽介（京都大学）
佐藤雄大（名古屋外国語大学）
松岡弥生子（University of the People）
コーディネーター：鎌倉義士（愛知大学）
2023 年 6 月 10 日 [Zoom 開催]

2023 年 6 月 10 日にオンライン開催された第 38 回 JACET 中部支部大会の柳瀬氏の基調講演「AI の導入で英語授業はより人間的になった－実践速報に基づく考察」に続いて、柳瀬氏に松岡弥生子氏、佐藤がシンポジストとして加わり、中部支部支部長の鎌倉氏のコーディネイトのもと「AI 時代の英語教育」のシンポジウムが行われた。柳瀬氏が基調講演で ChatGPT を中心に AI 技術が英語教育にとって有益なツールであり、実際ご自身の授業でどのように使用されているかを報告していただいた後、それを受けて佐藤、松岡氏が報告し、最後に鎌倉氏のコーディネイトでディスカッションが行われた。

佐藤は「AI 技術環境でも言語教育で着目したいところ」と題して、ChatGPT をはじめとする AI 技術に関して、「情報」を二つの枠組みに分け、AI 技術の「開放系情報」（ただ蓄

Activator Next
大学生の自信を促す英語コミュニケーション
塩澤 正 / Adam Martinelli　著
大人気の Activator シリーズ最新刊！
多彩なアクティビティ（ロールプレイや対話活動、ディスカッション）を通して、大学生必須の会話力をグレードアップ
￥1,900 (税込 ￥2,090) B5 判 120 pp. 全 15 章 ISBN978-4-7647-4178-2
KINSEIDO 金星堂
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-21
電話 03-3263-3828 FAX 03-3263-0716
text@kinsei-do.co.jp http://www.kinsei-do.co.jp

積されていく情報）に対して人間の情報は「意味」生成だという整理をし、認知科学からの見方を踏まえながら、教育は学習者の「意味」生成を手助けすることを考えれば、AI 技術で応用できるものは活用する必要性の話しをした。次に松岡氏からは、氏の今までの AI 翻訳に関する研究から学生の中に AI 翻訳がかなり広く浸透しているものの、学生自身も AI 翻訳に過度に依存すると英語学習にはよくないという認識があることがまず報告され、そうした認識をもとに具体的に口頭訓練と組み合わせたり、ライティングでも指導の中に意図的に組み入れていくと AI 技術を効果的に英語教育に取り入れていけるという提案がありました。また AI 技術に過度に依存しないための対策として最近の研究に基づいて「内発的動機づけを促す」や「書くことは考えることであるということを改めて学習者に指導する」などの提言がありました。

その後、鎌倉氏のリードでパネリストからの発言を引き出しながら、ディスカッションが行われた。柳瀬氏からは「頭、心、体」に基づく英語学習、松岡氏からは「引用」指導の重要性などへの言及あった。全体として ChatGPT を含む AI 技術が英語教育にどのように利用できるかという議論が行われた。その際、こういう転換期において、あらためて学習者の力を伸ばすということが教育であり、その点がおさえられていれば AI 技術も生産的に取り入れていけるのではないかということが確認されたという印象が残るシンポジウムだった。

佐藤雄大（名古屋外国語大学）

研究会報告

国際英語と異文化理解研究会
SIG on World Englishes and Cross-cultural Understanding

国際英語と異文化理解研究会は「国際英語論と異文化理解の視点から日本の英語教育のあり方を考える」という趣旨のもと 2005 年に設置された研究会です。この趣旨に賛同した 7 名のメンバーがほぼ毎月のペースで研究会を開いています。

国際英語論と一概に言っても、古くは WE 論に始まり、EIL 論、ELF 論、GELT 論などの各論が順次提唱されて来ています。各論とも NE と NNE を等価的に見做すという基本的理念を共有してはいますが各論の主義主張は一様ではありません。本研究会ではそれぞれの理論が日本の英語教育に対してどのように寄与できるのかを理論面、実践面の両面から検討してきました。2016 年には、WE 論と IL 論に焦点を当て、両論が日本の英語教育に対して理論面と音韻、統語、意味、非言語伝達の実践面にどのように寄与するかを深く検討しました。その成果として『「国際英語論」で変わる日本の英語教育』を出版することが出来ました。最近は、ELF 論と GELT 論を主として採り上げ、前回と同様、両論が日本の英語教育にどのように寄与できるかを検討しています。特に、GELT 論は英語教育論に焦点を当てた理論であるので本研究会の趣旨に適した理論であると感じています。本研究会は、理論的適合性、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニング等の分野を各自が分担して研究を重ねています。

異文化理解も本研究会にとって重要な研究テーマです。国際英語論は社会言語学に属する理論であると思いますので、文化や民族性の研究、即ち異文化理解は本研究会にとって研究の守備範囲です。言語と文化は切り離すことは中々出来ません。国際英語論では英語を国際共通語と考えているので当該の文化が反映されている夫々の英語変種間の調整や適応が必要になる異文化理解の研究も欠かすことは出来ません。

2023 年度は、研究会研究活動として月例の研究会の他に、以下の様な研究活動を行いました。8 月の第 62 回 JACET 国際大会では「国際英語論で変わる日本の英語教育」の総合テーマで SIG ポスター発表を行いました。

このポスター発表では、「EIL 論と GE 論の日本の英語教育への寄与」や「国際英語論の視点を取り入れたリーディング、ライティング、発音」に関しての発表を行いました。12 月 2 日の JALL in JACET では「GELT 理論に基づく教育実践の可能性」の総合テーマで SIG ポスター発表を行いました。このポスター発表では、「GELT 理論の日本の英語教育への寄与」や「GELT 理論に基づく授業運営、ライティング指導、日本人発音の可能性」などに関にしての発表を行いました。12 月 3 日の 2023 年度第 1 回定例研究会では研究会研究発表を行いました。メンバーの 2 名が「多様な英語との接触で海外とのやり取りをしない「国際英語論」的授業の進め」と「日本人の英語発音の明瞭性に関する研究」のテーマで研究発表を行いました。2024 年度はこれまでの研究活動を発展的に継続していきたいと考えています。また、研究環境が改善されて来たので対面での研究会を開催して研究活動を活性化したいと考えている次第です。

吉川 寛（中京大学）

書評

『World Englishes 入門
グローバルな英語世界への招待』
(大石晴美(編著), 昭和堂)

「英語は、使用する人の母語や文化の影響を受け、多様な形に変容しつつあります」（ｉ）と本著の冒頭にあるように、様々に異なる英語を受け入れることが困難な学生もいる。「TOEIC のリスニングではアメリカ英語に比べてイギリス英語の聞き取りが難しい」という愚痴を幾度と聞いたことがある。私自身は自動車部品メーカーに勤務した時、各種のアジア英語の聞き取りに手間取った。今でもインド英語のリスニングには自信がない。大石晴美先生（岐阜聖徳学園大学）（編）による最新刊『World Englishes 入門 グローバルな英語世界への招待』はこのような多種多様な英語 Englishes の概要と現状を理解するのに最適の書である。

本著の構成は工夫されており World Englishes 研究の第一人者カチュルが提唱した同心円モデルと同様に、第Ⅰ部「母語としての英語」（イギリスとケルト、アメリカとカナダ、オーストラリアとニュージーランド）、第Ⅱ部「公用語・第二言語としての英語」（インド、東南アジア、アフリカ、カリブ）、第Ⅲ部「国際語・外国語としての英語」（ヨーロッパと中東、日本、韓国、中華世界、モンゴル、ミャンマー）と

成 美 堂 2024 年度 新刊のご案内
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-22
TEL 03-3291-2261 / FAX 03-3293-5490

Global Gate -Video-based Four Skills Training-
Basic／Intermediate／Upper-intermediate.....各 2,970 円(税込)

Global Perspectives Reading & Writing
Book 1／Book 2 ..... 各 2,750 円(税込)

Active Reading Strategies Book 1 .....2,750 円(税込)

Science Inspirations .....2,200 円(税込)

AFP World News Report 7.....2,860 円(税込)

Meet the World 2024
-English through Newspapers- .....2,310 円(税込)

AN AMAZING AVENUE FOR THE TOEIC® L&R TEST 400
.....2,750 円(税込)

A COMMUNICATIVE APPROACH TO THE TOEIC® L&R TEST Book 3: Advanced .....2,530 円(税込)

Tell Your Story!
-Using Transition Words in English Writing- .....2,200 円(税込)

Grand Tour－New Discoveries .....2,200 円(税込)

小学校英語科教育法 -理論と実践-【改訂版】 ..3,080 円(税込)

SEIBIDO
URL:https://www.seibido.co.jp
e-mail:seibido@seibido.co.jp

展開される。本著の前身となる『World Englishes 世界英語への招待』(田中春美・田中幸子編 2012 年)に比べ、日本近隣のアジア諸国の英語をより詳しく取り上げている点が本著の特徴である。

各部の章にてそれぞれの英語の特徴が説明されている。各章に記された目次を見るだけでも World Englishes の発達と展開が理解できる構成である。巻頭にある序章では World Englishes を理解するのに必要な言語学の用語が丁寧に紹介され、大学生にも容易に本の内容へ没入できるよう準備されている。終章では、「世界中に広まり、各国・各地域で様々な人々に使用されるようになった」(p. 211)World Englishes の未来について変化変容・英語教育・研究のまとめと提言がなされている。

第Ⅰ部第1章は「イギリスとケルトの英語」から始まる。発祥の地での英語の発展について英語史を辿るように説明している。英語を専門とする学部学科では英語史の講座が開講されるが、本著のように世界諸英語に繋がる基礎として英語の歴史を学ぶ視点が今後の英語教育に必要かもしれない。第2章では「アメリカとカナダの英語」について、北米での英語の発展が多数の図表を用いて分かりやすく解説されている。第3章「オーストラリアとニュージーランドの英語」では具体的な現地の英語表現の紹介に加えて、現地文化を知るコラムが興味深い。先住民のマオリがニュージーランド英語に与えた影響も記されている。

第Ⅱ部は第4章で「インドの英語」を扱い、私が愛読する『インド英語のリスニング』(2023 年 研究社)と『インド英語のツボ』(2016 年 アルク)の著者である榎木園鉄也先生が加藤拓由先生と共著でインド英語の基礎と最新事情を紹介してくれている。第5章「東南アジアの英語」では、東南アジア・フィリピン・シンガポール・マレーシアの諸英語を限られた紙幅の中で各英語の発音・語彙・文法が詳細に述べられている。第6章「アフリカの英語」では、アフリカの諸英語を理解するのに「地域固有語との関係、それも言語学的側面だけでなく、政治的・社会的な視点が不可欠」(p. 102)であることを強調している。これは言語に興味を持つ英語を学ぶ大学生にその背景となる歴史と文化を含む国際的な教養が必要であることを再確認させる。第7章「カリブ海の英語」は学生の興味を惹く『パイレーツ・オブ・カリビアン』の紹介に始まり、野球やレゲエ音楽というサブカルチャーからカリブ海諸国のピジン語と英語系クレオール語を学術的な視野から解説している。

第Ⅲ部第8章では「ヨーロッパと中東の英語」の題で広大な地域での国際語としての英語を網羅している。紙幅の都合により中東の英語についての記述が限られており残念ではあるが、英語を学ぶ学生が現地でのビジネスや地域紛争の解決に貢献できるよう本書から状況を学ぶことは重要である。第9章「日本の英語」は私たちに馴染みが深い内容であるものの、丁寧に日本の英語教育の歴史を纏めた後、日本の英語教育の現状と課題を小学校の英語教育から機械翻訳まで包含している。第10 章は「韓国の英語」と題して隣国の英語教育事情をその学習熱を例に解説している。さらに、大学生が好む K-pop・韓国ドラマ・映画から韓国英語を記述している。第 11 章「中華世界の英語」は中国・香港・台湾の各地域での言語事情と英語教育を分析した後、中国の大学生の英語観から「自国の英語を卑下しすぎない」(p. 186)という World Englishes として望ましい傾向がありながらも国際舞台で活躍する人の英語力に厳しい中国人と日本人の英語観を示す研究を紹介している。第 12 章では政治体制の変化により英語重視に移行した「モンゴルの英語」の言語事情と特徴を説明している。モンゴルの英語教育を通して、英語の文化や情報の流入が仕事や勉強の機会を求める学生に強く影響する現状が見て取れる。第 13 章「ミャンマーの英語」では植民地支配や政情不安から

教育が安定しない国の様子をミャンマーの英語教育の歴史的変遷から述べている。前章のモンゴルを含め、第Ⅲ部の国と地域では社会状況の変化が現地の英語教育に影響を与える様子が詳細に記述されている。

本書は各章が 18 ページ以内で纏められ、大学生が集中して読むのに適した分量であり、章末に研究テーマと参考文献が記されていることから、この本を教科書として学んだ後に更なる課題や勉強へと展開が可能となる。序章と終章を含む全 15 章の構成は、多くの大学で学期の授業数に相当し、授業で教科書として扱うにも適している。本著を基にした国際諸英語を学ぶワークブックが各英語の音声付きで将来的に出版されることが望ましい。

本著は JACET 中部の会員にこそ読んで頂きたい書である。支部会員である大石晴美先生（岐阜聖徳学園大学）が編者を務め、今村洋美先生（中部大学）・岡戸浩子先生（名城大学）・榎木園鉄也先生（中京大学）が各章の執筆を担当されている。中部支部の活動に貢献頂いた田中春美先生と田中幸子先生の著作から発展した本作は、中部地区における長年の研究結果による結晶であることに他ならない。

最後に、この原稿はマイクロソフト Word で執筆しているのだが、文章内で頻出する Englishes の単語全てにエラーチェッカーが赤い波線を提示してくる。この Englishes が誤用と判断されなくなった時が、World Englishes が研究以外の分野でも広く受容された時なのだろう。その時が早く訪れるため、多くの人にこの書籍が読まれることを切に願う。

鎌倉義士（愛知大学）

掲示板

『JACET 中部支部紀要』第 22 号への掲載論文の投稿（学術論文、研究ノート、実践報告、書評）を募集します。奮ってご応募ください。

締切：　2024 年 9 月 20 日
刊行予定：　2024 年 12 月
掲載料：　刷り上がり 1 ページにつき、1,000 円
問合せ：　JACET 中部支部事務局（紀要担当：柴田直哉）

投稿方法等の詳細については中部支部ホームページでご確認ください。

中部支部紀要編集委員会

事務局より

◆ 新入会員のご紹介

2023 年 5 月から 2023 年 12 月までの中部支部所属新入会員は以下の方々です。
（敬称略、入会順）

宮腰　宏美（常葉大学）
古泉　隆（名古屋大学）
杉山　優太（愛知大学）
藤本　恭子（愛知淑徳大学）
アントン　ヴェゲル（名古屋外国語大学）
川村　一代（皇學館大学）
石山　久美（静岡英和学院大学）
山本　大貴（信州大学）
柳田　綾（桜花学園大学）
ヒグネット　真妃（岐阜大学）
浜崎　通世（愛知教育大学）
ロドリゲス　ウラジミル（名古屋大学大学院生）
杉山　侑姫（中部大学大学院生）
本守　美織（中京大学）
田村　知子（愛知教育大学(非常勤)）

◆ 2023年度第２回支部総会報告

12月3日に開催された第 2 回 JACET 中部支部総会で 2024年度事業計画及び予算案が了承されました。

◆ 2024年度中部支部役員（敬称略）

顧問：　倉橋洋子（東海学園大学名誉教授）
　　吉川寛（中京大学）
理事・支部長：鎌倉義士（愛知大学）
副支部長：今井隆夫（南山大学）
事務局幹事：大瀧綾乃（静岡大学）
事務局幹事（事務局補佐）：
内田政一(桜花学園大学)
事務局幹事（紀要担当）：
柴田直哉（名古屋外国語大学）
事務局幹事（会計担当）：
梶浦眞由美（名古屋市立大学）

支部研究企画委員（50 音順）
石川有香（名古屋工業大学）、今井隆夫（南山大学）、内田政一(桜花学園大学)、江口朗子（立命館大学）、大石晴美（岐阜聖徳学園大学）、大瀧綾乃（静岡大学）、大森裕實（愛知大学）、岡戸浩子（名城大学）、梶浦眞由美（名古屋市立大学）、鎌倉義士（愛知大学）、木村友保（名古屋外国語大名誉教授）、倉橋洋子（東海学園大名誉教授）、小宮富子（岡崎女子短期大学）、佐藤雄大（名古屋外国語大学）、塩澤 正（中部大学）、柴田直哉（名古屋外国語大学）、下内 充（中部学院大学）、白畑知彦（静岡大学）、杉浦正利（名古屋大学）、鈴木達也（南山大学）、藤田 賢（愛知学院大学）、藤原康弘（名城大学）、藤村敬次（愛知工業大学）、三上仁志（中部大学）、吉川　寛（中京大学）

支部紀要編集委員会
　委員長：石川有香
　委　員：大石晴美、岡戸浩子、塩澤　正、
　　下内 充、白畑知彦、杉浦正利、
　　藤原康弘

◆ 2024 年度 中部支部 英語教育フォーラムのお知らせ

2024 年度 中部支部 英語教育フォーラムを 2024 年 6 月 1 日（土）に愛知大学にて開催いたします（オンライン配信も同時に開催）。招待講演、シンポジウム等を予定しております。

なお、第 1 回支部総会も同日開催いたします。総会資料は当日配布いたします。本資料の内容は理事会にて審議・承認を得ており、報告事項となります。

英語教育フォーラムに関する情報は、JACET 中部支部 HP をご覧ください。

◆ 2024年度講演会・定例研究会のお知らせ

2024年第 1 回定例研究会・中部支部講演会は 2024年11月30日（土）に静岡大学 静岡キャンパスにて、第 2 回定例研究会を 2025年 3 月 1 日（土）に南山大学にて開催を予定しております。詳細は JACET 中部支部ホームページに掲載予定です。

◆ 2024年度 JACET 国際大会のご案内

第 62 回国際大会は 2024年 8 月 28 日(水)～30 日(金)に愛知大学で開催されます。
大会テーマ
「高等教育における英語教育の立ち位置を考える Positioning ELT in Higher Education」
詳細は JACET 大会ホームページ（ https://www.jacet.org/convention/2024-2）をご覧ください。

◆ 住所変更届提出のお願い

支部会員のみなさまに、紀要や Newsletter などの郵便物をお届けできない事例が増えています。お手数ですが、転居の際には、JACET 本部事務局と中部支部事務局の両方に、住所変更届をご提出ください。詳細は、以下のサイトをご覧ください。
・JACET 中部支部ホームページ
　http://www.jacet-chubu.org/

◆ ニューズレターは会員の皆様のフォーラムです。ご意見、ご要望等は事務局までメールでお送りください。投稿も歓迎いたします。なお、メール件名は【JACET 中部】とお書き添えください。

◆事務局
〒 422-8529
静岡県静岡市駿河区大谷 836
静岡大学教育学部 大瀧綾乃研究室内
E-mail: otaki.ayano@shizuoka.ac.jp

JACET 中部支部ホームページ
http://www.jacet-chubu.org/

JACET-Chubu Newsletter No. 51

2024年1月25日発行

発行者：一般社団法人 大学英語教育学会
中部支部（代表）鎌倉義士

編集者：内田政一、江口朗子、大瀧綾乃